

南ユタ大学での短期コミュニケーション研修を終えて

函館校 地域協働専攻・国際協働グループ 2年 木村朱里

8月31日から9月25日にかけてアメリカの南ユタ大学での短期コミュニケーションプログラムに参加してきました。私はこれまで海外に行ったことがなく不安は沢山ありましたが、初めて行った海外がこのユタ州で良かったと心から思えるほど居心地が良かったです。私の経験を少しお話します。

・きっかけ

私がこのプログラムへの参加を決めたのはせつかくある長期休暇中に何かに挑戦してみたいというのと人として大きく成長したいと思ったからです。1年生の頃の夏休みは遊んだり旅行をしたりして楽しかったのですが、振り返った時に自分のためになることを何一つしていないことに気が付きました。だから今年は何か自分を変えられるようなことをしようと考え始めたのです。とりあえず自分の分析をしてみると行動力がないということが一番の欠点であることがわかりました。自信がないことをするときどうしても人に頼ってしまいがちだったのです。このプログラムは授業もあり、ホームステイもできるので積極性が試される良い機会になると思い選びました。

・ユタ州につくまで

私はビザの代わりとなる **ESTA** の登録が間違えていて出国できないかもしれないという状況から始まりました。急いで航空会社の事務所にいらせてもらい登録し直しをしました。出発までに登録が間に合わないかもしれないと言われましたが何とか間に合い無事に飛び立つことができました。**ESTA** の登録ではパスポートの番号と一文字でも違うと私のようになってしまうので気を付けてください。飛行機では生まれてはじめての機内食に感激しました。韓国の仁川空港で乗り換えでしたが、先輩方が集合時間を決めてくれ、自由行動にする前に集合場所に連れていってくれたので迷うことなく集合でき、誰も遅れることなくアメリカに向かうことが出来ました。

ラスベガスからユタ州に向かうまでは車で約3時間もかかりました。南ユタ大学で働いているジョセフという同じ年の人が運転してくれました。私はジョセフの助手席だったので3時間ずっと会話をすることができました。緊張と初めての外国ということで全然スムーズに話せないのに何に対しても優しく反応してくれとても嬉しかったです。私たちはユタ州に向かう車のなかでさえまだホームステイ先がわからない状態でした。不安で仕方ないという話をするとジョセフは先にホームステイ先を教えてくれたのですが、なんとそこにあっただけ私だけ日本人1人でホームステイという現実でした。さらに緊張している間にユタ州に到着し、ホストファミリーと顔を合わせました。そこにはアーヨンという韓国の

留学生もいました。彼女は 22 歳で私より 2 週間早くユタ州での生活を始めていました。ホストファミリーへのお土産は白い恋人とじゃがポックルを持って行ったのですが、どちらも北海道のものということでとても喜んでもらえました。ホストファミリーの英語は早すぎて全然聞き取ることができませんでした。部屋で落ち込んでいるとアーヨンが遊びに来てくれ、家のルールや自分のことを沢山教えてくれました。アーヨンのおかげで少しだけ緊張がほどけいよいよ私のアメリカでの生活がスタートしました。

・授業

午前中はプレゼンテーションを行ったり多様性やジェンダーについての講義を受けたりしました。プレゼンテーションは 400 人くらいの小学生の前で発表したり、南ユタ大学の学生の前で発表したりできたので度胸がつきました。何かしらのアクションを起こさなければ関心を持ってもらえないことや文と文の間でポーズを入れることが大切であるとわかりました。午後は先生から与えられたトピックに対して自分の考えをまとめ先生にメールで送り、その後はそれについて韓国の留学生たちと議論する時間でした。議論の時間は自分の考えを英語で伝えるのにとっても良い練習になりました。また、日本人以外の考え方にも触れることができ新鮮でした。



小学校でのプレゼン



南ユタ大学の授業でのプレゼン

・生活

最初の休日には日本人・韓国人・中国人の学生でブライスカニオンで絶景を見ました。私が今まで見てきたどんな自然よりも壮大で感動しました。

ボランティアも 2 つ経験することが出来ました。マラソンボランティアは応援と撤去作業をしました。一生懸命走っている人の姿はとてがかっこよかったです。またハッピーファクトリーという手作りの木のおもちゃを世界中の子供たちに無料で提供するという活動を行っているところでもニス塗りのボランティアをしました。素敵な活動を知ることが出来たのと少しですがお手伝いできて光栄でした。

3 回ほどパーティーにも行きました。日本でやったことのない遊びを沢山できて楽しかったです。日本人が私 1 人だけのパーティーの時は心細くて人見知りを発揮してしまいました

たが、ゲームをやるうちに自然と打ち解けてきました。初めて会った人や会って間もない人にも素を出すとすぐに仲良くなれるとわかりました。

ハイキングに行ったりもしました。町を見渡すことのでき、空気もきれいで気持ちよかったです。日没は非常に美しくいつまでも見ていたかったです。ユタ州は星もきれいなのです。田舎なので高い建物がなく空が日本の何倍も広いし、看板のライトなどもないためです。惑星や天の川も常に見えました。

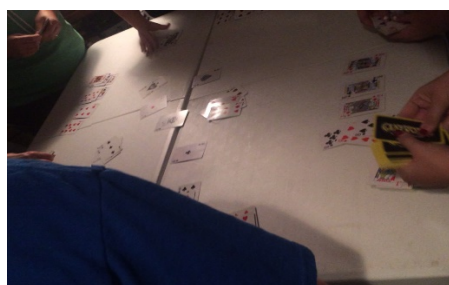
放課後はスカッシュをしたり、バスケットをしたり、大学内のプールに行ったりしました。プールは水着がなくても T シャツ・短パンで入れました。タオルの貸し出しもあったので着替えさえ持っていけば誰でも入れます。皆で競争をしたのも楽しかったし、浮かんでいるだけでも楽しかったです。



ブライスカニオン



マラソンボランティア



パーティー



美しい日没

・最後に

私にはユタ州での生活を通して変わることができた部分があります。

まず 1 つは自分の考えははっきり言えるようになりました。アメリカでは遠慮せずにこれがしたい、こうしてほしいとはっきり伝えることが普通でした。むしろ隠れた感情は読み取ってもらえません。でもはっきり言ったがために嫌な感じになるということはなかったし、正直に言った方がすぐに伝わるし、自分の感情に素直に生きることは気持ちが良かったので日本でもこのように生活するようになりました。

英語は、耳は慣れてかなり聞き取りができるようになりましたが自分の言いたいことを伝えるのはやはりまだ難しいです。行く前より話せるようになったので、やはり英語を話す機会を作ることで少しずつ上達できるのかなと思い、英会話教室に通うことにしました。来

年はユタ州での生活を共にした韓国人留学生と会う約束をしているので、それまでにもっとスムーズに話せるようになって驚かせたいです。

そして私は積極的になることを 1 番の目標として掲げて出発しました。最初は思っていた以上の自分の英語力のなさに自信を失い実行に移せていませんでした。最後の 1 週間を迎える時にこれではだめだと思えるだけ積極的に現地の人に話しかけることができました。結果として以前よりは積極的になれましたがまだ満足いくほどではありません。この悔しさをばねにこれからも積極的な人になれるように頑張っていきます。

全体的には変わったことの方が多かったので自分にとって貴重な夏休みになりました。大切なのは何でもまずはやってみることです。アメリカに行ってみる、話かけてみる、聞いてみる、頼んでみる、家や学校の周りを歩いてみる…。全て自分の中の何かを変えてくれるきっかけになると思います。迷っている方、まずは行く決めてみてください。



修了!!最高のメンバーでした!!!